

行政視察報告

視察日時	令和2年10月15日(木) 午前11時00分～午後0時00分
視察場所	青森県八戸市庁
視察項目	八戸市及び八戸圏域における地域公共交通の維持・再編について
視 察 者	総務文教常任委員会委員8名 同行当局職員1名 事務局職員1名
視察概要	<p>八戸駅線は、各事業者がそれぞれバラバラに系統やダイヤを運行していたために、平日228便もの運行本数があったのにも関わらず、時間帯によっては運行本数にばらつきがあるなど、市民や来訪者の利便性にはつなげていなかった。そこで、2事業者2路線の10分間隔のダイヤに平準化することにより、便数は1日46本減ったものの、利便性は向上した。</p> <p>高頻度・等間隔運行のサービス水準を戦略的に確保。旧八戸市内ではバス停からの500m以内に居住する人口が92%と市内全域を網羅。</p> <p>多くの住民の便益向上に繋がる政策への転換を図るために、路線バス上限運賃政策を実施。導入時は圏域内の路線バス運賃を、初乗り150円・50円刻みの運賃にし、上限を500円、八戸市内については上限300円に改定した。これにより、路線バス利用者は増加傾向にある。</p> <p>八戸圏域連携中枢都市圏での「公共交通志向型の圏域づくり」を目指し、「八戸圏域地域公共交通網形成計画」を平成31年1月に策定。路線の重複解消を図るなど、一体的に見直し、段階的に再編事業を拡大した。圏域全体の公共交通ネットワークにおける生産性・利便性を確保・維持している。</p>
本市に生かせる視点	<p>八戸市内幹線軸路線は10～30分間隔で運行されており、等間隔・高頻度運行により、安心感と利便性を向上し、市民や来訪者に「信頼して使ってもらえる交通サービス」になることが必要である。</p> <p>「米沢市都市計画マスタープラン」及び「米沢市立地適正化計画」が策定中であるが、「コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造」の実現に向け、都市計画と公共交通の再編など一体的に取り組みが必要である。</p> <p>米沢市内の高校には、置賜一円から通学している。市内の私立高校では自前で通学バスを運行しているが、八戸市の上限運賃設定は、こういった置賜圏域内のニーズに応えるのに有効な施策ではないかと考えられる。</p> <p>バスに乗って出かけたいくなる「まちづくり」が必要不可欠であり、行政や交通事業者のみならず、教育や商業・観光など、地域づくりに係わる様々な主体と連携することが求められる。八戸市のまちなかの公共施設は、日中は高齢者がバスを利用して訪れる場所であり、夕方は高校生がバスの待合所として利用する場所となっているなど、中心地市街地活性化事</p>

業と公共交通政策が、上手く相乗効果を生み出していたが、本市においても、このような視点が重要である。



↑八戸市庁で担当課から説明を受けている様子